

H29年度 佐賀県学習状況調査・全国学力学習状況調査の分析結果と 今後の対応について

小城市立三日月小学校

4月に行われた全国学力・学習状況調査（6年国語・算数）、佐賀県学習状況調査（5年国語・算数）の本校全体の結果をまとめました。

また、生活習慣に関する意識調査について、数値が高かった項目と低かった項目を挙げ、分析と今後の取り組みについてまとめました。

【全体の正答率について】

5年国語科：全体の正答率は 県の平均より やや上回っています。

5年算数科：全体の正答率は 県の平均と ほぼ同じです。

6年国語科：全体の正答率は 県の平均より やや下回っています。

6年算数科：全体の正答率は 県の平均と ほぼ同じです。

【経年比較について】

同一児童での経年比較をしてみると、5年生の国語科の正答率は下がり、算数科の正答率は同じでした。6年生の国語科の正答率は下がり、算数科の正答率は上がっています。

このことから、算数科においては学力を維持できていますが、国語科においては取り組みが十分だとは言いがたいことが分かります。今後も子ども達にしっかりと学力をつけていく対策が必要だと言えます。

結果の個人票は、夏休み中の個人面談で配布しました。

本校では、夏期休業中に、職員研修を行って今回の結果を詳しく分析しました。その分析をもとに、2学期以降の授業の改善等に生かして、学力の向上をはかっていきます。

2学期当初に、家庭学習においてどのような具体的な取り組みをしていくかについては、「家庭学習リーフレット」を保護者の皆様に配布してお知らせします。学習に対する取り組み方や学習方法を工夫することによって、より学力の定着が図れます。保護者の皆様、本校の取り組みにご協力いただきますようお願いいたします。

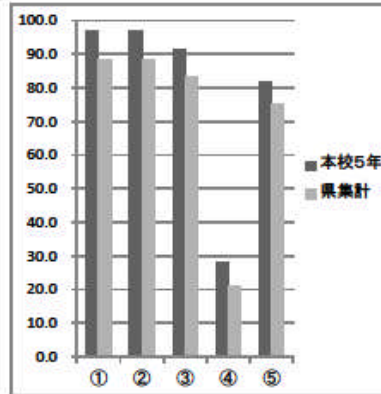
	分析結果	今後の対応
5 年 国 語	<p>◎全体の正答率は、県平均を上回っている。</p> <p>◎「話すこと・聞くこと」は、県平均を大きく上回っている。</p> <p>○「書くこと」「読むこと」は、県平均とほぼ同じである。</p> <p>◎「言語事項」は 県平均を大きく上回っている。</p> <p>●「よりよい表現に書き直すために、文末表現に注意して書く」こと。常体と敬体との区別。</p> <p>●「段落相互の関係を捉える」こと。</p>	<p>①国語科の授業における話し合い活動だけではなく、他教科・特別活動においても話し合い活動を取り入れる。その際、相手を納得させるような根拠を述べる力を身につけさせる。</p> <p>②二文を一文にしたり、文章の語尾に気を付けて書いたりするなど、条件に合わせて短文を書く活動を取り入れる。</p> <p>③単元の導入の際に、文章構成を考える活動を取り入れる。</p> <p>④図書館の活用や家庭での読書を見直し、読みの体験を広める活動を継続することで語彙力をつける。</p>
5 年 算 数	<p>○全体の正答率は、県平均とほぼ同じである。</p> <p>○観点別では、「技能」は県平均とほぼ同じ、「知識、理解」は県平均をやや上回っているが、「考え方」はわずかに下回っている。</p> <p>◎数と計算、量と測定は県平均をやや上回っている。</p> <p>●示された条件から必要な数値を取り出したり、注意深く問題文を読み取ったりすること。</p> <p>●計算の工夫を理解し、その工夫を用いて解決する仕方をうまく説明すること。</p> <p>●分数の減法計算を正しく理解すること。 $1\frac{3}{7}-\frac{4}{7}$</p> <p>●対角線等の算数用語の意味を正しく理解すること。</p> <p>●除法の商とあまりの問題場面と関連づけて解釈すること。</p> <p>●（ ）を用いた式で表すこと。</p>	<p>①「すくすくタイム」等に基本的な問題をドリル練習で継続していく。</p> <p>②「ふたりでタイム」「もんじゅタイム」などで、自分の考えを広めたり深めたりする活動を継続していく。</p> <p>③問題文を読み取ったり、与えられた情報を整理したりすることができないため、問題文を短く切って読み取らせたり、アンダーラインを引いたりさせる。</p> <p>④問題文を絵や図に表す活動や、図・式・言葉がつながる活動に意識して取り組む。</p> <p>⑤解決の必要性を感じるような場面から課題提示を行い、算数の良さを実感させるようにする。</p> <p>⑥単位換算や計算のきまりを使った式の工夫などは、繰り返し取り組ませることで習熟を図る。</p> <p>⑦算数用語については、視覚的な支援を使いながら確実に概念を形成させ、定着するまで繰り返し練習させる。</p> <p>⑧既習事項を生活に生かす声かけを行い、算数の有用性を意識させる。</p>

	分析結果	今後の対応
6 年 国 語	<ul style="list-style-type: none"> ●全体の正答率は、県平均をやや下回っている。 ●観点別の正答率では、「読む」に課題が見られた。特に「目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く」ことに課題が見られた。 ○「話す聞く」はやや上回っている。 ●条件付きの解答率・正答率ともに最も低いことから、条件付きの問題に解答するのに不慣れである。 ●話し合いの流れの中で、相手の発言の意図をとらえることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ①物語を読み、具体的な叙述をもとに理由を明確にして、自分の考えをまとめる学習を取り入れる。 ②複数の条件付きの問題で、条件を正確にとらえていない。問題の条件を明確にして解答する学習を取り入れる。 ③俳句や短歌、詩を読む単元で、どの表現が何のどんな様子を表しているのかを考えさせるような授業を展開する。 ④図書館の活用や家庭での読書を見直し、読みの体験を広める活動を継続することで語彙力をつける。
6 年 算 数	<ul style="list-style-type: none"> ●全体の正答率は県平均とほぼ同じであるが、観点別では、「数学的な考え方」が県平均より低く、内容・領域別では、「量と測定」が県平均より低い。 ●算数B問題（活用）に関しては、半分近くが県平均を下回っており、活用力に大きな課題が見られた。 ◎「図形」の領域は県平均をやや回る。 ○「技能」「知識理解」は県平均をやや上回っている ●長文理解や文意を読み取りながら場面を転換させて考えること。 ●条件に合わせて、言葉や数・式を使って説明すること。 ●基本的な計算技能は身につけているものの、問題場面に合った立式は個人差が大きく、特に複数の立式が必要な場合には答えが何を表しているかを意識せずに解いていることが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ①問題文にわかっていることを書き込んだり、文意を絵や図でわかりやすく表現したりすることを習慣化させる。 ②学習内容を日常生活に転用できるように、身近な場面を問題に取り入れたり、学習した内容を身の回りの事象にあてはめたりする。 ③授業において、別の考えを解釈する場面を意識して取り入れる。 ④授業の「つなげる」場において、説明の仕方のモデルや、算数用語を示すことで、自分の言葉で説明する活動ができるだけ取り入れる。 ⑤既習内容の習得状況については、個人差が大きいため、宿題等で復習する機会をつくっていく。 ⑥既習事項を生活に生かす声かけを行い、算数の有用性を意識させる。

平成29年度 三日月小 生活習慣に関する意識調査 【5年】

【数値が特に高かった項目】

	調査の項目
①	2) 学校では落ち着いて勉強することができると思う。
②	1) 学校に行くのは楽しいと思う。
③	47) 算数の授業で公式やきまりを使うとき、そのわけを理解するようにしている。
④	60) 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか。
⑤	46) 算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える。



【分析と取組】

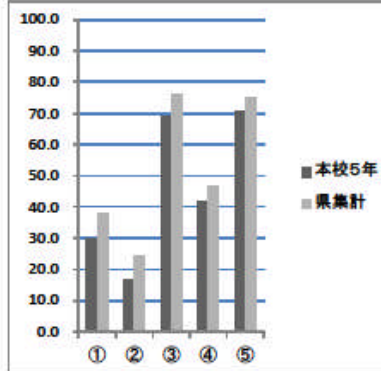
○落ち着いた環境で勉強することができる児童ほど、正答率が高い。休み時間と授業中のメリハリを付けるなど、教師が、落ち着いて学習に臨める環境をつくっていく。

○将来の夢や希望をもっている児童や、友達に会うのが楽しいと思っている児童の正答率が高い。また、どの教科においても、学習は好きだが、勉強が生活の中に役に立つと思う割合になると、下がっている。

○校内研において算数の授業研究に取り組んでいるので、特に算数においての児童の興味・関心が高まり、普段の生活の中でも活用しようとする力につながっている。継続して、算数の授業の中で普段の生活を意識させるような言葉かけを教師が行っていく。

【数値が特に低かった項目】

	調査の項目
①	61) 昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館へどれくらい行きますか。
②	6) 学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(2時間以上勉強している児童)
③	24) 授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていると思う。
④	13) 学校の授業の予習をしている。
⑤	63) 今住んでいる地域の行事に参加している。



【分析と取組】

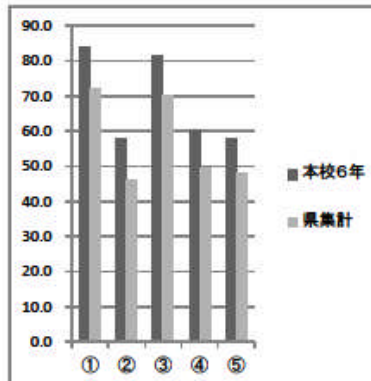
○授業のまとめについては行っているが、適用問題を解いたり、振り返りを書いたりすることを、児童は振り返る活動とっていないのではないか。学習の振り返りをしている時間だという意識を高めていく。

○学校以外の学習については、体育系の習い事をしている児童が多く、塾や文化系の習い事をする児童が少ない。授業の予習をしている児童は、通信教育などを使って自分で予習に取り組んでいる児童が多い。新単元に入る際には、レディネスを高めるような復習問題に取り組ませたり、簡単な予習的な問題に取り組ませ、児童の学習意欲を高めていきたい。

平成29年度 三日月小 生活習慣に関する意識調査 【6年】

【数値が特に高かった項目】

調査の項目	
①	(28)家の人は、授業参観や運動会などの学校の行事に来る。
②	(40)今住んでいる地域の行事に参加している。
③	(50)友達との約束を守っている。
④	(56)授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う。
⑤	(81)算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたい。



【分析と取組】

○学校行事に対して、家庭の関心が高いほど正答率が高い。これからも、家庭に関心を持ってもらえるように、学校からのきめ細やかな情報発信が必要である。

○地域行事に参加している子ども、正答率が高い。日頃から地域行事には積極的に関わるよう呼びかけを行い、行事のプリントを配布する際にも、参加を促す一言を添えるようにすることが大事だと考えられる。

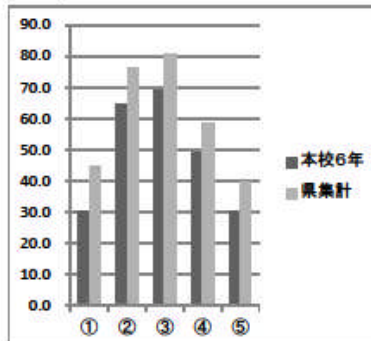
○友達との約束を守っている子は正答率も高い。人との関わりを大切にすることは、学習のルールも身につけやすいためと思われる。ルールを守ることもしっかりと称賛していきたい。

○自分の考えを発表している子ども、正答率も高い。学習に意欲的に取り組んでいる証であろう。発表したことに対し「ありがとう。」「学習が深まったね。」などの肯定的な言葉を添え、子供の発言を大切に授業づくりを進めていきたい。

○新しい問題を解いてみたいと思う子ども、正答率が高い。子供たちが持つ、知的好奇心、チャレンジ精神を喚起するような手立て(特に導入場面での)をとっていきたい。

【数値が特に低かった項目】

調査の項目	
①	(43)地域社会などでボランティア活動に参加したことがある。
②	(72)読書は好きだ。
③	(18)学校の授業時間以外に、普段、1日どれくらいの時間、読書を読みますか。(読書をしていると回答した児童)
④	(69)国語の勉強は好きだ。
⑤	(14)普段、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットを読みますか。(携帯電話やスマートフォンを持っていないと回答した児童)



【分析と取組】

○ボランティア活動への参加が低い。地域でのボランティア活動の実態は不明だが、ボランティアの意義や大切さを学校の中で教え、参加している児童を紹介するなどして啓発していく必要があると考えられる。

○読書が好きだと答えた児童や学校以外で読書をしている児童の割合が少ないことから、まずは本に親しませることが大事だと考えられる。図書館へ行く回数を増やしたり、おすすめの本やいろいろなジャンルの本を紹介したりする等の工夫が考えられる。司書の先生との連携も欠かせない。

○国語の学習に、苦手意識をもっている児童が多い。説明、報告、紹介、討論などの真話活動をしっかり取り入れ、伝え合う力を育てる授業の工夫を行っていく。また、書くことに対する抵抗をなくしていきたい。

○携帯電話やスマートフォンの所有率が県より高い。家庭や育友会と連携して、使用についてのしっかりとしたルール作りを進めていきたい。